

陳 述 書

2007年6月3日

住所
職業
氏名

記

1991年から1994年まで東久留米市立西中学校で、私の次女、 が疋田先生のお世話になりました。その間2年間保護者である私もまたPTAの役員として、学校側のPTA担当の任にあっていた疋田先生と活動を共にしてきました。その当時先生のやってこられたこと、印象などを娘と思い出しながら話をしました。その中のことを思いつくままに書き出してみました。

娘は理科の教官として、また軟式テニス部の顧問として指導していただきました。理科の授業はほかの教科にくらべとてもユニークで楽しいものであったと述懐しています。生徒たちがより良く理解できるように、教えようとする内容をふくらませ詳細にわたるプリントを作って下さったため、プリントの量も大量であったといえます。プリントだけでなくビデオなどいろいろなものを使っての授業であったので理科室はいつも雑然としていたとも言っています。

また当時としては画期的であったと思いますが性教育についても理科の時間の中で教えてくださったことが良かったと言っています。その授業はユニークかつ大切なこととしてテレビでも取り上げられました。

定期考査の問題も従来のような設問ではなく深く考えさせるような変わった問題が多くとても面白く印象に残っているようです。実験で作ったカルメラやタンポポコーヒーのことを良く覚えていました。当時の親たちの間では変わった授業スタイルで評判でしたが、一様に子どもたちにとって興味をひく好ましい授業とされていました。

テニス部の顧問としても非常に厳しくはあったようでしたが理科の授業と同様、練習でもわかりやすく指導していただけたので上達も早く子、子どもたちにとっては自分に自信が持てるようになったようです。娘も都大会にまで行かれたのはヒキタだったからだと言っています。

また軽音楽部の顧問としてもご自分の楽器や機材を持ち込んで熱心に指導し

ていました。学区域にある地域センターで毎年行われるフェスティバルにも参加して地域の人たちから喝采をあげていました。

私がPTAの役員をしていた頃は学内に「荒れ」がありそのことで学校長を含む教官とも密な共同がありました。その中で疋田先生は非常に熱心に問題に取り組んでいました。学校に来ていても授業に出るでもなく地べたに座り込んでいる生徒たちもいました。けれどその生徒たちはそうした形で学校に自分たちの居場所を見つけていたのです。当時私たち親はそうした形でも生徒が学校に来られる状況を、疋田先生や若い先生たちが校長と共に生徒たちを管理でがんじがらめにしようとしなかったからではないかと好意をもって見ていました。ある時ひどいじめが学内であり、誰もそのことを先生に言い出せずにいたのを疋田先生が見つけそのことでものすごく怒ったことがあった、とても怖かったと娘は言いました。筋の通らないこと、理不尽なことに対してはつねに強い態度で臨んでいました。

私は東久留米で青空学校という、2泊3日の異年齢集団の学校キャンプを20年続けていますが、西中でのPTA活動がご縁で疋田先生にもこの活動を手伝っていただいています。多くの先生方が参加してくださっていましたが10年以上現在も続けて下さっているのは疋田先生だけになってしまいました。青空学校の中でも小学生から指導員と呼ばれる若者たちにまで強い信頼を受けています。

人事委員会への不服申請をされたときも疋田先生の人となり、また日常の行動をきちんと調べていただければわかることと思っておりましたが、却下されたという事実には驚きと怒りを感じています。たしかになにか事を成すときの疋田先生の発想、方法論は多くの人とは違っているかもしれません。けれど先生が今までやってきたことが多くの子どもたちに受け入れられ育ってきた事実を見れば決して一般的に受け入れられない人ではないとわかるはずでしょう。みんなと違っているという理由で排除されるということ、それがこれからの日本を築いていく子どもたちを育てていく教育の現場で起きたということに心のそこから憤りを感じます。

この陳述書が疋田先生の人となりを知っていただくためによすがになることを願っています。